

賢明な利用

湿地を保全する上で、賢明な利用（ワイズユース）は重要な役割を果たします。伊豆沼・内沼のように、人里の近くにある湿地では、かつては、漁業によって魚やエビが収穫されていたり、ヨシが茅葺き屋根に利用されてきました。このような活動は、地域の生活を支えると同時に、沼からの魚やヨシなどの形で有機物を取り出すことが水質改善につながるなど、環境保全の役割も果たしていました。現代に入り、生活様式の変化や流通の発達から、淡水魚よりも海産魚が食べられるようになったり、茅葺き屋根も使われなくなるなど、沼を生活のために利用する人は少なくなり、ヨシ原が荒地になったり、有機物が蓄積することで、水環境も悪化しやすくなりました。そのため、適切な管理が必要になります。賢明な利用とは、伝統的な利用の仕方を学びながら、現代社会に合わせた形で沼を利用し、その湿地環境の保全を図る利用方法です。



刈ったヨシを束ねて茅葺きなどに使用する。